

説教

正当化：信者の人生に影響を与える

パウロはローマ人への手紙の中で、クリスチャンが得られる安全な立場を定義するために多くの説明と教えを与えてきました。彼は、イエス・キリストの贖い、あるいは許しを買うための血の犠牲を信じたときに、この安全を受け取りました。

さて、パウロは、信者が自分の人生を生きるとき、もはや罪人としてではなく、義とされた聖人として、義認の結果を説明または暴露しています。

R.5.1 したがって。よく言われるように、「したがって、なぜそこにあるのか？そこに ある」「したがって」とは、ローマ人への手紙 1 章 17 節からの基本的にローマ書全体を指します。ローマ人への手紙 4.23 ……それ（義）は、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちに帰属するものとします。、…したがって…信仰による義認を定義し、非キリスト教徒のユダヤ人の聴衆と律法に基づく行いによる救いに反対する訴訟を提起します。イエス・キリストを信じることの輝かしい結論、

メシア、私たちの罪のために死んだということは、私たちが信仰によって義とされることを意味します。行いによって、特にモーセを通してイスラエルに与えられた神の律法を守ることによって救いの重荷から解放されることは、誰にとっても肩の荷が重いのです。また、1 節にある新しいポジティブな効果は、私たちの主イエス・キリストを通して神との平和をもたらすことです。

私はローマ人への手紙 5.1-2 の J.B. フィリップスの翻訳がとても好きです。それ以来、私たちが義とされるのは信仰によるのですから、私たちの主イエス・キリストを通して神との間に平和があるという事実を理解しましょう。私たちは彼を通して、この新しい恵みの関係に自信を持って入りました。ここで私たちは、将来彼が私たちのために用意してくださっている輝かしい事柄を確信して、私たちの立場をとります。

把握とは、信仰によって義とされるという真理を「把握する」、「明確に理解する」、「しっかりと握り締める」ことを意味します。また、聖書の主要なテーマ、「イエスに会うまで信仰から信仰へとしっかりとしがみついでいなさい」も繰り返しています。{ ブルース牧師の説教 / 2023 年 10 月 8 日 } - 私は、ローマ人への手紙 1.17 章の解説から、「救いの力は再生のために罪人の中で働き始め、その後聖人、聖なる者として彼の中で働き続けることも明らかにしています」と説教しました。この力は、地球上での生涯を通して持続しなければなりません。新生クリスチャンにおける神の継続的な働きは信仰から信仰へと行われ、新生クリスチャンもまた、特に自分の魂や心の中で、信仰から信仰へと働きを行います。しかし、イエスは常に私たちと共にいて、私たちの十字架のより重い側面を背負ってくださいます!!!」

要点 #1

自信を持って - 信仰による義認から始まる神の約束に自信を持って。私たちの自信は自分自身で

はなくイエスにあるので、神は謙虚さと自信を同時に生み出します。

平和 - 戦争がないこと、または戦争が終わったばかりであること、静けさ、静穏。罪人は神に対して戦争をしている神の敵です。(ローマ人への手紙 5.10)。罪人の神に対する戦いは、罪を洗い流してくれたイエスの贖いの血の犠牲を信じることで終わりました。私たちは**信仰**によって義とされ、神との間に平和を持っています。(ローマ人への手紙 5.1/NASB)。これは最優先の平和です。もちろん、私たちはそうしませんでしたし、今もその価値はありません。しかし、イエスはそれを与え、そして与え続けました。イエスは(ヨハネ 14.27 / ISV) **であなたを安心させておきますと言いました。私はあなたに私自身の平和を与えます。世界が与えるように私はあなたにそれを与えません。ですから、心を騒がせたり、恐れたりしないでください。イエスは、使徒たちを十字架の死から離れるとき、地上での最後の晩餐の際に、使徒たちにこう言われました。彼は今日私たちクリスチャンを決して離れることはないと約束しました。聖書はこう述べています(ヘブライ人への手紙 13.5 / ISV) あなたの行動は金銭への愛から自由であり、自分が持っているものに満足していなければなりません。神ご自身がこう言われたからです。私は決してあなたを見捨てません。」** 6 **したがって、私たちは自信を持ってこう言えます。「主は私の助け手です。主は私の助け手です。」** 私は怖くないよ。誰が私に何ができるの?」 [b]

元のギリシャ語には二重否定があります。英語とは異なり、これは非常に強調するためのものであり、意味を逆にするものではありません。したがって、ヘブライ人への手紙 13.5 b では「**私は決してあなたを離れません。私は決してあなたを見捨てません。私は決してあなたを離れることも、あなたを見捨てることも決してないように読むことができます。イエスは私たちの個人的な救い主です。彼の約束は日常生活と身体的必要性に当てはまります。私たち自身の罪深い欲望やサタンとの戦いにおいて、神の約束は私たちと共にあります。**

特に新しく生まれ変わったクリスチャンへのメモです。イエスは三位一体の第三位格である聖霊を通して今も私たちと共におられます。聖霊がクリスチャンに与えられる前に、イエスは使徒たちに聖霊を約束されました(ヨハネ 14.26)。しかし、父がわたしの名によって遣わされる**助け手、聖霊は、あなたにすべてのことを教え、わたしがあなたに言ったことすべてを思い出させてくれる**でしょう。私たちの天の助け手は、イエスと天の御父とのつながりです。イエスは聖霊を通して永遠に私たちとともにおられ、その約束を果たされます。イエスの遺体は天国にありますが、私たちクリスチャンが地球上のどこに行っても、イエスの臨在とのつながりはあります。ここ地球における神の臨在は、あらゆる意味で神の聖霊の臨在です。

新しく生まれ変わったクリスチャンの人生のある時点で、私たち信者の中にある聖霊に対抗して、その輝かしい平和を台無しにしようと決意している別の力または霊的存在がいることに気づき始めます。それはサタンであり、神の敵であり、神のすべての子の敵です。クリスチャン生活のこの事実については、ローマ人への手紙 8 章でさらに詳しく取り上げられます。**信仰による救いの賜物の大きさを私たちが完全に認識することが最も重要です。同時に、聖書は物事をありのままに語っています。悪魔についての無知は至福ではなく、水ぶくれです！ ……彼の燃えるような矢があなたの霊的生活を苦痛で焼き尽くすように。**

神に対する私たちの戦争が終わり、平和が宣言されたとき、サタンとの戦いが始まりました。罪

人として、私たちは彼の囚人でした。 刑務所に閉じ込められた囚人は戦うことができない！

アメリカで 1960 年代に流行った曲に、Iwimbuway (ズールー語でムブベ... 皆さんもご存知だと思います!) がありました。 この曲は「村の」平和を表現しています。 ライオンが近くにいる、壊れやすい草の小屋に住んでいることを想像してみてください。 この曲の歌詞には「だから、今夜はライオンが眠るから黙っててね」というものがある。 私たちの物質的な生活に対するサタンの脅威は、**神の言葉**によって簡単に退けられます (ヘブライ人への手紙 2. 14 **AMPC**)。したがって、[これらの神の]子供たちは血肉を共有している[人間の肉体的性質]を共有しているので、神[ご自身]も同様の方法で同じ[性質]に参加し、死を[通過する]ことによってもたらすかもしれない 無に帰す {死に関しては何も無い}、死の力を持つ者、つまり悪魔に何の影響も与えないかもしれません。 イエスの死は、死を引き起こす悪魔の力を排除しました。 2.2 この世の人と同じ生き方をし、罪にまみれ、主に反抗する人の心に今も働いている、力ある支配者サタンの言うままになっていたのです。 (エペソ人への手紙 2. 2) サタンは、今も息子たちの中で働いている**霊の空気の力の王子**によると、あなたが以前この世界の成り行きに従って歩んできた**不従順の空気の力の王子**としての力をまだ持っています。彼はもはや死を支配する力を持っていません。 ヨブが聖書で言ったように (ヨブ 1. 21/口語訳 21) 主は与え、主は取り去られました。 主の御名がほめられますように。」。そして、(詩篇 116. 15 **NASB**) では、**主の目に尊いのは、主の敬虔な者たちの死**です。 聖書のこれらの節は、旧約聖書の聖徒たちにとって、サタンには死を支配する力がなかったことを暗示しています。 イエスが十字架の死を征服して以来、サタンは非キリスト教徒の死に対しても力を持っていません。 これは、命の危険にさらされている非クリスチャンのために祈るときに重要です。 クリスチャンにとっての輝かしい事実は、死は神が彼を家に連れ帰ること、つまり**天国への卒業**であるということです。

クリスチャンの人生には、邪悪なライオンが眠っている時期があることがあります。 しかし、クリスチャンの霊的生活を懸念していた使徒ペテロが (1 ペテロ 5. 8/ISV) で信者に思い出させたように、心を明晰にし、注意深くありなさい。 あなたの敵である悪魔は、**ほえるライオン**のようにうろつき、食いつくべき者を探しています。 明晰な心と注意力とは、聖書の一節を頭の中に保ち、祈りを心の中に留めておくことを意味します。 聖書の一節は御霊の剣です。 これは神の武具の重要な部分です (エペソ 6. 10-18)。 私たちには神の御霊と勝利のためのあらゆる武器が手元にあり、あるいは利用可能です。 私たちは父の御手の中にあります (ヨハネ 10. 29) それらを私に与えてくださった私の父は誰よりも偉大です。 そして誰もそれらを父の手から奪い取ることはできません。 そして、上で述べたように、イエス・キリストは聖霊によって私たちの内におられます。 霊的には、草小屋に住むようにライオンを恐れる必要はありません。 しかし、聖書、祈り、クリスチャンの交わりなど、自分の必要を無視することがよくあります。 もしよろしければ、私たちは霊的な草小屋に引っ越します。

私たちの神は防波堤、要塞です。 しかし、聖書は、戦うことを学ぶことが私たちの仕事であるとはっきりと教えています。 私たちはもはやサタンの無力な囚人ではなく、キリスト・イエスのための兵士です。

v. 2 私たちも、このキリストを通して、信仰によって、わたしたちが立っているこの恵みへの導入

を得ました。主イエス・キリストを通して、私たちはキリストにある人生への入門を得ました。イントロダクションという言葉は「これは始まりにすぎません」という意味です。霊的な生活の始まりであるこの新しい人生を始めるときに、自分の弱さに目を向けたり緊張したりする前に、私たちが立っているのはこの恵みの中にあるということをよく認識してください。神の恵みは、神の過分のご好意です。また、注意しておきたいのは、私たちの昔の生活では、私たちは本当に歩いている死人だったということです。イエスが命であるように、この新しい命も命です。(ヨハネ 11.25) イエスは彼女にこう言われました。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。」

v. 2b、ここで私たちは立場を表明します。地上のイエスの軍隊のクリスチャンであり兵士として、私たちは主イエス、あるいは主イエスの教えのために立ち上がる勇気を欠いてはなりません。多くの場合、クリスチャンを自称する人々に対して立場をとらなければなりません。私が言明すると言うのは、たとえ彼らがクリスチャンであると言う、または**言明しても、彼らが心の中で本当にキリストを告白しているかどうかは神だけが知っているからです。**

歴史における真の例として、宗教的なパリサイ人と対峙したキリストや律法主義的なユダヤ人パウロまで遡る必要はありません。というのも、西暦 1500 年、ローマ カトリックの修道士マルティン ルターは、修道院でキリストを観想しながら、自分の罪に対して失敗し続けていることに心を打たれたからです。すると、聖霊はローマ人への手紙の一つ、おそらく 5.1 節に心を開いてくださいました。彼は生まれ変わったクリスチャンになりました。彼の良い行いへの鎖は外れました。しかし、彼の説教と著作により、ローマ・カトリック教皇によって命が脅かされました。彼は法王の要求に応じて**信仰のみによる救い**を撤回しなかった場合、破門とおそらく死刑の判決で裁判にかけられた。彼はローマ人への手紙 5.2 からの裁判で、**ここに私は立っています!!!**と宣言しました

このようにして、キリストへの信仰のみによる真の教会は、宗教的儀式や非聖書的实践による救いから切り離され、神聖化されることによって生き残ったのです。すべてのクリスチャンは、誤謬や異端(非聖書的な宗教宣言)に流されないよう、聖書を十分に知っておくべきです。

v. 2b **そして私たちは神の栄光を願って祝います。(NASB) そして私たちは、神が将来私たちのために用意してくださっている輝かしい事柄について幸せな確信を持って立場をとります。(JBP)。**

イエスを祝うことはクリスチャンの人生の主要テーマです。フィリップスの「希望」に対する世俗的な理解を妨げる言葉の使い方が好きです。非キリスト教的な考えは、将来何かを「願う」または「望む」というものです。希望を表す聖書の言葉(エルピス/ギリシャ語)は、神ご自身と同じくらい確実な将来の出来事を意味します。私は、Mounce の要約に同意します。

「この希望に関する支配的な理解は旧約聖書に基づいており、そこでの希望は本質的に「信頼」と同義であり、主に望むことは主に信頼することです(ローマ 15:13)。パウロがローマ 5 章 2 節でクリスチャンは「神の栄光を期待して喜ぶ」と言っていますが、彼は明らかに希望を単なる「願い」という意味で意図しているわけではありません。自信を持った期待だけが喜びを生み出します。確実に受け取れないものを望むことは、喜びではなく不安を生み出します。パウロが続けて書いているように、クリスチャンの希望は決して私たちを失望させない希望です。

(ローマ 5:5) (ムンス)

私たちの人生の将来の出来事に対する父の御心を知っているのはイエスだけです。イエスは永遠の命と豊かな命を約束されました。イエスは(ヨハネ 10.10)でこう言われました。**10 泥棒は**

盗み、殺し、滅ぼすためだけに来ます。私に来たのは、彼らが命を得て、それを豊かに持つためです。

ローマ人への手紙 5.2b では、神が将来私たちのために用意してくださっている輝かしい事柄について、幸せな確信を抱いています。(JBP) 私たちは当然、これが私たちの生活のすべてが幸せで陽気になることを意味すると考えています。しかし、聖書を少し読んだだけで、神が幸せでイエスの御言葉にある人生を定義しているのは、イエスに近づくことによる豊かさであり、天の栄光への楽な人生ではないことがわかります。

R. v. 3 私たちの視点に対する神の視点を**明確に**します。時々、私たちは少し自然すぎて、十分にスピリチュアルではありません。将来の輝かしい出来事とは、地球上での神の栄光の臨在を**すでに**経験していることと、私たちの中に何の罪も邪魔する悪魔もない天での神の栄光を**まだ**経験していないことを意味します。聖霊はこれらの聖句に、**すでにそしてまだではない**ことを吹き込んでいます。患難の中で祝うには、イエスが聖霊によって私たちとともにおられ、いつか天国でイエスとともにおられるという確信が必要です。次にパウロは、クリスチャンにとって「成熟への道」とも言えるものを挙げています。**v. 3-5 (NASB)** を読むと、次のことがわかります。

艱難は忍耐をもたらし、忍耐は品格をもたらし、品格は希望をもたらし、希望は... 神がこの地上での困難を乗り越え、特に私たちが天国でイエスとともに栄光に入るときにどのように私たちを導いてくださったかに失望することはありません。「どうやって?」と尋ねるかもしれません。**v. 5** は、私たちに与えられた聖霊を通して、神の愛が私たちの心の中に注がれているからだと言っています。聖霊は、たとえ艱難の中でもイエスを祝うことができるように私たちに力を与え(ローマ人への手紙 5.2b)、成熟へと導きます。このように、神の栄光はすでにすべてのクリスチャンに与えられていますが、それでも私たち一人一人に個人的なものであることが意図されています。他人、特に自分の敵であるように見える人々を愛する奇跡は、今ここでの神の栄光の輝かしい結果の一つであるように思えます。しかし、神が私たちの人生においてどのような状況を艱難として決定されたとしても、この神の御言葉は、天国の前である程度の栄光を伴う三位一体の第三位格である聖霊を経験することを期待するように私たちに告げています。JB フィリップスが(ローマ人への手紙 5.5 章)で述べているように、**私たちはすでに、私たちに与えられた聖霊によって神の愛が心に溢れ出るという経験をしています。**

ローマのキリスト教徒に、信者にとっては普通のこととして経験的キリスト教を期待するように教えた後、彼は、私たちが御子を受け入れる前の、私たちに対する神の愛に立ち戻りました。

v. 6-8 を読んでください (NASB)... 私たちがキリストを知ったり受け入れたりする前に、神は私たちに対するご自身の愛(アガペ/ギリシャ語)を実証または明らかにされました。神は時を超えておられるので、このことは、パウロがローマにこの手紙を書いた西暦 55 年だけでなく、西暦 2,000 年にも当てはまります。神は私たち皆が罪の中で死んでおり、**罪の依存症である牢獄**から抜け出すことができずにいるのをご覧になりました。しかし、それにもかかわらず、神は適切な時に私たちのために死ぬために御子を遣わされました。神は「時間」を超越していますが、「時間」の中で起こるすべてのことに主権的です。私たちは、神がどのようにしてローマがギリシア人に支配されている世界を征服し、**十字架上のイエスの死**を木に設置することを許したのかを考えてみるかもしれません(ガラテア 3.13 と申命記 21.23)。

ガラテア 3.13 キリストは、私たちにとって呪いとなった律法の呪いから私たちを救い出してくださいました。なぜなら、「木にぶら下がっている者は皆呪われている」と書かれているからです(申命記 21.23)。十字架刑はローマ人の残酷な戦略でした。反乱を阻止します。また、神はギリシャの将軍アレキサンダー大王がローマ人より先に文明世界を征服することを許可されました。神は、御子の福音が、ギリシャ語新約聖書において人類の間でこれまで語られた中で最も明瞭な言葉に値することを知っていました。アレクサンダーによって征服された人々は、ローマに征服された後もビジネス言語としてギリシャ語を使い続けました。でも、私は正しい時期が私にとって正しい時期であることを本当に考えています。聖霊は、罪人がそれを信じる準備ができていたまさに正しい瞬間に、罪のために死んだイエスの真実を認識するために、罪人の心を開くという点において、賢明であり、不思議です。

R. v. 7 パウロが人類の墮落のリストの冒頭に聖書の言葉を並べたように(ローマ人への手紙 3.10-18)、神は私たちが墮落した罪人であることをご存知でした。義人はいない、ひとりもいない。(ローマ人への手紙 3.10)。「義人」または「善人」という言葉は、罪のない人ではありません。パウロは、誰かが勇敢な行為で自分の命を犠牲にして救えるような性格と特質を人生で示している人のことを指しています。しかし、神は私たち人間が実際にどれほど墮落しているかを知っています。

R. v. 8 このことから、私たちがまだ罪人であった私たちのためにイエスを十字架に遣わしたのは、私たち自身に何のメリットもなかったことが再び明らかになります。*Were*-英語の be 動詞の過去形に形容詞、まだ、そして形容詞 *eimi harmartolos* /ギリシャ語で「まだ罪人である」が続くことは、私たちがもう罪人ではないことを明確に定義します。それは私たちがもう罪を犯さなくなったからではなく、キリストにおける神の前での私たちの立場のためです。

要点 #2 キリスト教徒は非キリスト教徒に対して、自分たちがまだ罪を犯していることを認めるかもしれません。しかし、クリスチャンが非クリスチャンに聞こえるところで自分たちを「罪人」と呼ぶことは、生まれ変わるという真実を大きく誤って伝えています。それは、私のためのイエスの死が私をまったく変えなかったということを意味します。それはまた、非クリスチャンが罪を犯し続けることを奨励します。「あなたも私と同じだ」と彼らは思うでしょう。罪人は罪を犯す人ではありません。ここで聖書は「罪人」を神の「敵」と定義しています。(以下の v.10 を参照) クリスチャンは自らを、神の「敵」と呼んではなりません。

私たちが神の前にひざまずいて祈り、自分たちを「罪人」と呼ぶとき、それはまったく異なるコミュニケーションになります。私たちの古い性質が私たちの利益と神の喜びにとってあまりにも生き生きしていることを認めているので、私たちはただ神を求めているだけです。私たちは依然として信仰によって義とされる立場にあり、もはや罪人ではなく、**信仰によって聖なる者**です。

私の最後のポイントは、**v. 9** への流れ、または続きです。読む... イエスの血によって義とされるということは、私たちがキリスト教的に生まれ変わる前でも後でも、罪のゆえに当然受けるべき神の怒りを受けないことを意味します。

. v. 10 というのは、もし私たちが神の敵であったとき、御子の死を通して神と和解したとしたら、... やはり、聖書は神の目に「罪人」という言葉を「神の敵」を意味するものと明らかに再定義しているからです。私たちクリスチャンは、神がこの「罪人」という言葉を「神の敵」を意味する、あるいはそれと同じ、あるいは同義語として再定義したことを受け入れなければなりません。パウ

ロが弟子テモテに教えたように（テモテ第二 3.16 /MOUNCE）

聖書はすべて神によって吹き出されたものであり、教え、戒め、矯正し、義を訓練するのに有益です。もし私たちが「罪人」という言葉のこの再定義を受け入れないなら、私たちは聖書を私たちの最終的な権威にしていません。人生。私たちは文化や社会における世界の定義に囚われて、神の言葉の力、ひいてはイエスに対する私たちの影響力を弱めることとなります。

和解とは、人間の友好関係を回復することを意味します。この場合、神と人間の間はイエスの血によって結ばれます。

v. 10b .. さらに、和解したので、私たちは彼の命で救われるでしょう。

ここでの「救われる」には、神の裁きから救われることも含まれますが、イエスがまだ生きていることを思い出すことも意味します。彼は聖霊によって地球上で活動しています。イエスは父なる神を喜ばせるために私たちの人生に取り組んでいます。救いは多面的であり、私たちの周りの複雑な世界を見るとき、私たちは喜ぶべきです...

要点 #3

試練から試練において、神の計画を決意し、祈りをもって服従することで、私たちは成熟した人格を形成し、この種の人格は安定した希望、決して失望することのない希望を生み出します。私たちはすでに、私たちに与えられた聖霊によって神の愛が私たちの心に溢れ出すという経験をしています。成熟したクリスチャンはローマ人への手紙 5.3-5 章の道に沿って着実に歩み、「信頼する」ことは「信じる」ことであることを学び始めます。

v. 11 これだけではなく、私たちは今、和解を得た主イエス・キリストを通して、神にあって祝います。パウロは9節で「怒りから救われた」ことについて「さらに」という言葉を繰り返しています。

10 節の「さらに多くのこと」は、イエスの命によって救われました。彼は本当に、これからのクリスチャンの人生に感嘆符（!）を付けています。（v. 5.2 / JBP）。祝賀は、クリスチャンが（神の怒り）から救われ、（私たちの側にある生ける復活の救い主）に救われたことに対する唯一の合理的な応答です。

要点 #1

自信を持って - 信仰による義認から始まる神の約束に自信を持って。私たちの自信は自分自身ではなくイエスにあるので、神は謙虚さと自信を同時に生み出します。

要点 #2 クリスチャンは非クリスチャンに対して、自分たちがまだ罪を犯していることを認めるかもしれませんが。しかし、クリスチャンが非クリスチャンに聞こえるところで自分たちを「罪人」と呼ぶことは、生まれ変わるという真実を大きく誤って伝えています。それは、私のためのイエスの死が私をまったく変えなかったということを意味します。それはまた、非クリスチャンが罪を犯し続けることを奨励します。「あなたも私と同じだ」と彼らは思うでしょう。罪人は罪を犯す人ではありません。ここで聖書は「罪人」を神の「敵」と定義しています。（以下の 10 節を

参照) クリスマスは自らを神の「敵」と呼んではなりません。

私たちが神の前にひざまずいて祈り、自分たちを「罪人」と呼ぶとき、それはまったく異なるコミュニケーションになります。私たちの古い性質が私たちの利益と神の喜びにとってあまりにも生き生きしていることを認めているので、私たちはただ神を求めているだけです。私たちは依然として信仰によって義とされる立場にあり、もはや罪人ではなく、*信仰によって聖なる者*です。

要点 #3

*試練や試練において神の計画を決意し、祈りをもって従うこと*で、私たちは成熟した人格を形成し、この種の人格は安定した希望、決して失望することのない希望を生み出します。私たちはすでに、私たちに与えられた聖霊によって神の愛が私たちの心に溢れ出るという経験をしています。成熟したクリスマスはローマ人への手紙 5. 3-5 章の道に沿って着実に歩み、「信頼する」ことは「信じる」ことであることを学び始めます。

私の司牧的な祈りの前に、礼拝チームは歌います。 *And Can It Be ?*

OIC として自由に歌ってください。あなた方は、地上でも天国でも偉大な合唱団です。

……祈りましょう……

参考文献

AMPC - 増補聖書、クラシック版著作権 © 1954、1958、1962、1964、1965、1987 年、ロックマン財団。

ISV - 国際標準バージョンの著作権 © 1995-2014 by ISV Foundation。

JBP - J. B. フィリップス新約聖書、J. B. フィリップスによる現代英語新約聖書 copyright © 1960, 1972 J. B. Phillips. 英国国教会の大司教評議会によって管理されています。許可を得て使用します。

KJ21 - キング・ジェームス 21 世紀版

著作権 © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

MOUNCE - マウンス リバーズ インターリニア™ 新約聖書 (MOUNCE) 著作権 © 2011 by William D. Mounce。許可を得て使用しています。すべての権利は世界中で留保されます。「リバーズ インターリニア」は William D. Mounce の商標です。

NASB - 新しいアメリカ標準聖書、著作権 © 1960、1971、1977、1995、2020 ロックマン財団。無断転載を禁じます。